



新人看護師ローテーション研修を終えて～今後の抱負～



4月から新人看護師ローテーション研修が始まり最初は不安の方が多くありました。4つの病棟を2クールごとにローテーションしていく中で、それぞれの診療科の主要疾患や治療・検査・看護などを学ぶことができました。消化器・外科病棟に興味を持ち、3東病棟に配属となりましたが、まだまだ自分の知識や技術の未熟さを実感しています。業務に追われるのではなく、一つひとつの根拠が分かり術前・術後のアセスメントや終末期にある患者さん、家族の方との関わり方など今後も学びを深めていきたいと思ひます。

3東病棟 下田



各部署でのローテーション研修や患者体験入院をさせていただきました。ローテーション研修中は業務や患者さんとの関わりの中で失敗することも多々あり、プリセプターさんを始め、多くの先輩方からご指導を頂くことができ、看護師としての責任の大きさを実感するとともに、自己の課題も明確になってきました。

今後は、自己の課題を少しずつクリアできるよう日々を振り返りながら、次に活かし患者さんにより良い看護が提供できるよう、また患者さん家族との関わりの中で自分自身も成長できるように学習を深めていきたいと思ひます。

3西病棟 福寄



4月から全病棟を2クールごとに回りその病棟の特徴や疾患、検査などいろいろなことを学ぶことができました。各部署で研修を終え、3東病棟に配属となりました。まだまだ勉強不足であり、毎日バタバタし自分に余裕がない現状ですが、今後はしっかり患者さん一人ひとりと向き合い、考える力を身につけていきたいです。また、術式から術後の経過や状態の観察、アセスメントがしっかり行えるように日々勉強をしていきたいです。

3東病棟 山内



各部署をローテーションし、診療科のさまざまな疾患を持つ患者との関わりを通して患者に必要な治療や看護について多くの事を学びました。入院や治療に対する思い、退院後の生活に対する不安などさまざまな思いを抱えて入院生活を送る患者さんや家族と出会い、その関わりを通し、思いやりを持った対応や行動、知識や技術、指導方法について先輩看護師から多くのことを学びました。

4東病棟へ配属となり循環器・呼吸器の知識や技術のスキルアップが出来るように学習を深めていきたいです。まだまだ、多くのことで迷惑をかけてしまうと思ひますが、これまで学んだことを活かし患者さんへ寄り添い、思いやりを持った看護ができるように精一杯頑張っていきたいです。

4東病棟 岩元



ローテーション研修では、先輩看護師、プリセプターの方々から看護技術看護師としての対応など多くのことを学ぶことが出来ました。研修を終えた今、希望した病棟で働くこととなりました。日々の業務の中で、病棟特有の看護技術を学ぶことが多くあります。学んだことを活かし一人一人の患者様と向き合うことが出来るようになりたいと思ひます。

3西病棟 花木





看護師として多くの患者さんや病院スタッフの方に出会い、たくさんの学びと発見がありました。

学生の頃は気付けなかった、自分の性格や傾向も知り、前より自分の事が見えるようになったと感じます。多くの患者さんと接する中で、どう声をかけたらいいか、どうしたら自分の思いが伝わるのかと悩む場面もあり、落ち込む事もたくさんありましたが、それと同じくらい患者さんからの「ありがとう」という言葉がすごく嬉しくて元気をもらえました。病棟で働く中、明るくて楽しい病棟の雰囲気が好きで、自分の目標としたい看護師さんにも出会う事ができました。面白くて明るい先輩ばかりなので、患者さんは笑顔なのだと感じました。忙しい毎日でまだまだ勉強しなければならない事、覚えなければならない事もたくさんありますが、1年後自分の目標とする看護師像に少しでも近づく事ができるように、患者さんとしてしっかり向き合い自分にできる事を精一杯頑張りたいです。

4東病棟 野元



昨年の4月からオリエンテーション、様々な研修を経て、各病棟のローテーション研修、手術室・救急外来の体験研修をさせて頂き患者さんをいろんな側面から観ることの重要性や、家族背景・生活についても考えながら、看護につなげていく事の必要性を学ぶことが出来ました。現在は4階東病棟で奮闘している毎日ですが、患者さんに寄り添える看護をするにはまだまだ勉強が不足していることを痛感しています。自己研鑽を怠らずに、目標とする先輩看護師のようになれるよう頑張っていきたいと思っています。まずは、毎日笑顔で挨拶が出来るように心がけていきたいです。

4東病棟 野尻



約1年前から始まった新人ローテーションがもうすぐ終わろうとしている今、振り返り思い出されることは、沢山の先輩看護師に支えられていたからこそ頑張ってきたということです。病棟配属後に患者の急変を目の当たりにし、自分自身の学習不足を痛感し情けなく悔しい思いもしました。「看護師は一生勉強。学力だけではなく、人としてもね」と、先輩看護師に声をかけてもらいました。学生時代にも何度も聞いていた言葉でしたが、辛い思いをしたことで、その言葉の意味の重さを感じました。その言葉を常に念頭に置き、日々成長していきたいと思えます。

4西病棟 熊之細



ローテーション研修では、初めて関わる分野や、検査、患者さんとの日々の関わりを学ばせていただきました。約半年ほどの研修を終えて脳神経外科・神経内科に配属になりました。

まだまだ分からない事も多く、知識・技術の勉強を行い、日々の業務の中で多くのことを学んでいけるよう励んでいきたいと思えます。

4西病棟 大谷



ローテーション研修を終え、配属部署での勤務を通して思うことは学生で勤務していた時と違い、看護師としての責任の重さと大切さを学びました。アセスメントや各技術面も基礎から行う事ができ、また苦手な分野への挑戦のきっかけにもなりました。苦手な事から逃げずに、1つ1つ解決していく学びの大切さが分かりました。

患者さんにとって、信頼できる、近くにいるだけで安心できるような存在になれるように、知識や技術の向上とともに、人と人との関わり方や、コミュニケーション技術も高めていく事が今後の目標です。患者さんを第一に考え、寄り添い、プラスの方向にすすめるような支援を行っていきたいです。

包括ケア病棟 塩屋

院内研修

スターティング研修「ナラティブアプローチ」 ～患者さんの死を通して学んだこと～

3東病棟 下田

新人ローテーション研修を終えて、3東病棟に配属となりました。配属となってから初めての夜勤の日に担当していた患者さんが亡くなりました。その患者さんは癌の終末期にある方で、もう何日も前から家族が付き添っておられ状態も不安定でした。私は夜勤に入る前から「もしかしたら今日かもしれない」と覚悟はしていました。患者さんの元へ行き検温後しばらくして心電図モニターを見ると心拍数が次第に減少していき、御家族が見守られる中息を引き取られました。エンゼルケアをする前、私は他病棟で学んだグリーフケアを思い出し、先輩看護師と共に家族の方も「体を拭いたり、お化粧を一緒にされませんか？」と声をかけました。一緒に体を拭いたり髪を洗ったりする中で「お母さん、気持ちがいいね」、「ほら、お母さんがいつも旅行に行く時に着ていた服だよ」と娘さんが声をかけながら、生前患者さんが着られていた服を一緒に着せました。お化粧をする際も「お母さん、ちょっと口紅が濃いかな？」と手鏡を見せて話しかけておられました。この光景を間近で見ていた私は、患者さんが亡くなられたことは悲しいけれど、この病室内には家族の日常会話や笑い声が聞こえ、温かい空気を感じました。これまで何日も付き添われていた家族は死別を経験することで喪失を感じます。しかし、死別という現実に対応しようと立ち直りの思いも感じます。この思いが共存する二つの思いで揺れ動き、不安定な状態となっているこの時期に家族の方にさりげなく寄り添い、援助していくことが必要だと思いました。この御家族と一緒にエンゼルケアに入ってもらったことで、現実を知り亡くなった方への思いを言葉にして表出することが出来たと思います。自分の思いを言葉にして表出することで気持ちの整理ができ、残された家族の方が今後進んでいく道を確認していくきっかけになるのではないかと思います。患者さんの死だけではなく、家族の方が悲嘆に陥った時に私たち看護師が寄り添い傾聴していくことも大事なケアの一つだということ学びました。この仕事をしているとこれから先も人の死には直面していきます。一人の患者さんの死に関わらせて頂くことはとても貴重なことだと思えます。今後も患者さんとその家族の方のこれまで生きてきた生活背景を尊重し、大事にしていきたいと思えます。

院外研修

「実習指導者研修」に参加して

4西病棟 西川

平成26年11月26日～平成27年2月6日の期間中に、40日間の研修に参加させて頂きました。参加するまでは、学生がどのように考え実習に望んでいるのかが分からず、どのように指導したらよいか戸惑っていました。研修に参加し、いろいろな講義を受ける中で、講師の方々の話などを聴き、自分たちが育ってきた環境と、今の学生たちが育ってきた環境の違いがあり、お互いが気づく視点がちがうこと、分からなくて当たり前であり、積極性がないわけではないことが理解できました。こちらも待っているのではなく、積極的に声をかけていく必要があると感じました。他病院の研修参加者と指導案を作成する中で、基礎看護の教育指導の難しさや、大切さを学ぶことができました。同時に達成感を持つこともできました。研修中に、他の病院の方々とも意見交換ができ、一緒に学生指導について考えられたことは、とても実りがあったと感じます。病棟全体で学生を受け入れる環境づくりと、学生だけでなく、新人や後輩育成に対しても積極的に関わられるようにしていくことが、今後の課題であると感じています。

「第一回NST専門療法士資格更新セミナー

日本静脈傾聴栄養学会学術集会」に参加して

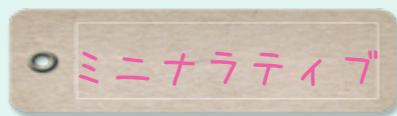
4西病棟 松下

今回、日本静脈経腸栄養学術集会、JSPEN臨床栄養セミナーに参加させて頂きました。学術集会では、看護師が追及すべき専門性はなにか、他職種ごとの意見交換を行うことで、看護師として栄養管理における役割について再度考える機会になりました。臨床栄養セミナー受講を通して、患者の栄養評価をはじめ、病態・症状に合わせた栄養管理方法の選択、栄養投与方法ごとのリスク回避を考慮した上で、看護にあたる必要があります。栄養状態を把握する上で、SGA・OGAの実施、必要ならNST介入を行い、他職種で統合的評価をすることで栄養管理を含め、合併症予防を図ることに繋がることが分かりました。3日間を通して、学んだことを臨床の場でも活かすことができるように病棟スタッフへの栄養管理に対する知識と意識の向上を図れるように働きかけていきたいです。

平成26年度看護管理者倫理研修
臨床倫理の4分割法を活用した倫理的課題への対応・
-病院と在宅の連携推進や看護職者退院支援を巡って-

回復リハビリ病棟 別府

臨床倫理の重要性は十分理解し、必要性も感じていますが苦手意識が強いのも事実です。臨床倫理についての理解を深め、自施設・自部署内での対応・検討を行う必要性は感じているものの、上手く考えられず積極的に取り組むことが出来ずにいました。今回、「臨床倫理は、看護ケアの質をより一層高めるためのものである」との説明に、一気に理解が高まり自分自身にあったわだかまりがすっきりと解消しました。臨床倫理というと、「解決しない。検討後に悶々とした感情が残る」との印象を持っていましたが、患者情報を4分割法で整理することで、情報収集の不十分さや看護実践等の対策をより具体的にでき、解決策の明確化、介入につなげる、他職種連携や対策検討ツールに繋がると考えられます。また、患者・家族も検討が必要な情報を受け、自己決定につなげる事が出来ます。自部署は看護師・准看護師・介護福祉士・看護助手と看護職も多種多様であり、またセラピスト・MSW等を始めとする他職種との連携を図る事が必要不可欠です。その中で、臨床倫理を特別な活動とせず、より身近に日常的なものとして捉え、介入できるような組織づくりや意識の変革が必要と考えます。その為には、臨床倫理に関する集合教育後、臨床でのOJTや事例検討をすることで、看護観の形成に繋げ、臨床倫理を意識しより身近なものにしていく事ができると思います。堅苦しく考えることなく実践に繋げることで、「より質の高い看護ケアの提供」が行えるよう、今後取り組み身近な臨床倫理としていきたいです。



外来化学療法室の看護師は、患者の病状、治療と向き合うにも短時間であり、また病状が悪化してくると入院になる事から、外来での関わり方の限界を感じていた時、結腸癌で外来化学療法に通院している60代の女性がおられ、普段から帽子をかぶり、とてもおしゃれな装いをされ、スタッフの間でも話題になっていました。しかし徐々に状態が悪化し主治医から入院の話がでましたが、本人は自宅でできるだけ過ごしたいと希望されました。3階の自宅から息子さんがおぶって階段の昇り降りをしなければならぬくらい体力が低下していました。「体は自分で何とか拭けるけど、もう何日も髪を洗っていないんです」と話されました。身の回りの清潔行為も行えない状況になり、普段のおしゃれな姿を見ていただけに、なんとかしてあげたいと思い、洗髪と清拭の計画を立てました。患者さんが受診されたケア当日に私は勤務ではありませんでしたが外来化学療法室担当看護師と緩和ケア認定看護師で洗髪と部分清拭を行いました。患者さんから「気持ちよかったあ。ありがとう」の言葉があったと後日報告をもらいました。外来の業務の中で清潔ケアをすることはかなりめずらしく、私達も外来で実施ができたこと、患者さんの希望に添えることができたことへの達成感と患者さんからの言葉に皆で喜び、共有できたことがとても嬉しかったです。その一週間後に入院され、お孫さんの1歳の誕生日を病室でお祝いし、その後家族が見守る中、亡くなられました。患者とのコミュニケーションの中からどうしてほしいか、どういう生き方をしていきたいか、寄り添いながら、外来看護や在宅看護などをさまざまな職種と連携し身体的・精神的サポートができるように、これからも心がけていきたいです。

外来 奥

私のマイブームは9か月になる子供の成長を見ることです。最近ハイハイやつかまり立ちをするようになり、とても活発でよく動き回っています。いろんなことができるようになり、毎日いろんな発見ができて、楽しい毎日を送っています。また、食べる事が好きな私はカフェめぐりもマイブームの一つです。

雰囲気のよいカフェや子供を連れていけるカフェなど休みの日は友達とよく行っています。

病棟スタッフや託児所の先生方のおかげで、仕事と育児の両立ができておりとても感謝しています。今後は即戦力となれるよう頑張っていきたいと思えます。



3東病棟 神園

編集後記

2月のインフルエンザ騒ぎが終焉し、3月に入り花粉症の方にはつらい季節を迎えました。

アレルギー症状が発症する人は、腸内環境と密接な関わりがあるそうです。「便秘」なるものが話題になっていますが、かなり抵抗があります。食生活を見直し腸内環境の調整を行い、免疫力を高める試みをしてはいかがでしょうか？(ちなみに私は、毎日ヨーグルトと果物と香酢を食しています)(小牧)